

ゴール 物語の冒頭文の工夫を読み取り、書き換えてみよう。

○次の三つの文は、物語の冒頭の文章です。これらを読んで後の問いに答えなさい。

A 「お父、また白山が見える！」
外から帰って来たため吉は、えん側にあみをすいている父親のすがたを見るやいなや、まだ立ち止らない中になこう言いました。このため吉の言葉に何の意味があるとも思わない父親は、
「そうかい。」とちよっとため吉の方を見ただけで、
……………

B 寒い冬が、北方から、きつねの親子のすんでいる森へやってきました。
ある朝、ほらあなから子どもものきつねが出ようとしましたが、
「あっ。」
とさけんで、目をおさえながら母さんぎつねの所へ駆けてきました。
……………

C そのふたりの少年は、あんなこわいめにあったのは、生まれてからはじめてでした。
春のはじめの、ある日曜日、小学校六年の島田君と木下君は、学校の先生のおうちへあそびにいって、いろいろおもしろいお話を聞き、夕方になって、やっと先生のうちを出ました。そのかえり道の出来事です。
……………

「少年と海」 加能作次郎作より

「手ぶくろを買いに」新美南吉作より

「どう明かい人」 江戸川乱歩作より

一 三つの冒頭文それぞれの読者の興味を高めるための工夫を読み取って、表に書きましよう。

工夫	A	B	C
(例) 書き出しを会話文にする ことで、読者をお話に引き込む工夫をしている。			

二 A～Cのいずれかの冒頭文の工夫を使って、「もも太郎」の冒頭文を書き換えましよう。

おかしおかし、あるところに、おじいさんとおばあさんが住んでいました。
おじいさんは、山にしばらくりに、おばあさんは川へせんたくに……

活用する工夫 ()

ふりかえり

- ・冒頭文の工夫を見つけることができた。()
- ・工夫を使って、冒頭文を書き換えることができた。()

ゴール 物語の冒頭文の工夫を読み取り、書き換えてみよう。

○次の三つの文は、物語の冒頭の文章です。これらを読んで後の問いに答えなさい。

A 「お父、また白山が見える！」
外から帰って来たため吉は、えん側にあみをすいている父親のすがたを見るやいなや、まだ立ち止らない中になこう言いました。このため吉の言葉に何の意味があるとも思わない父親は、
「そうかい。」とちよっとため吉の方を見ただけで、
……

B 寒い冬が、北方から、きつねの親子のすんでいる森へやってきました。
ある朝、ほらあなから子どもものきつねが出ようとしましたが、
「あっ。」
とさけんで、目をおさえながら母さんぎつねの所へ駆けてきました。
……

C そのふたりの少年は、あんなこわいめにあったのは、生まれてからはじめてでした。
春のはじめの、ある日曜日、小学校六年の島田君と木下君は、学校の先生のおうちへあそびにいって、いろいろおもしろいお話を聞き、夕方になって、やっと先生のうちを出ました。そのかえり道の出来事です。
……

「少年と海」 加能作次郎作より

「手ぶくろを買いに」新美南吉作より

「どう明かい人」 江戸川乱歩作より

一 三つの冒頭文それぞれの読者の興味を高めるための工夫を読み取って、表に書きましよう。

工夫	A	B	C
(例) 書き出しを会話文にする ことで、読者をお話に引き込む工夫をしている。	冬の到来を最初に書いて、これから何かが始まるドキドキ感を持たせている。	書き出しに、事件がおこったことを知らせる一文を持つてくることで、読者の興味を引き付ける工夫をしている。	

二 A、B、Cのいずれかの冒頭文の工夫を使って、「もも太郎」の冒頭文を書き換えましよう。

おかしおかし、あるところに、おじいさんとおばあさんが住んでいました。
おじいさんは、山へしばかりに、おばあさんは川へせんたくに……

活用する工夫 (3)

「ドンブラコ、ドンブラコ」大きな桃が流れてきました。
おかしおかしあるところに、おじいさんと、おばあさんが住んでいました。
おじいさんは、山へしばかりに、おばあさんは川へせんたくに……

ふりかえり

- ・冒頭文の工夫を見つけることができた。()
- ・工夫を使って、冒頭文を書き換えることができた。()